



まほろん通信

VOL.17

(平成 17 年 7 月 1 日発行)
(財) 福島県文化振興事業団
福島県文化財センター白河館
〒961-0835
白河市白坂字一里段 86
TEL 0248-21-0700 (代)
FAX 0248-21-1075
URL <http://www.mahoron.fks.ed.jp>



体験学習支援研修 2 「土器の野焼き」

4 月 29 日に行われた体験学習支援研修 1 で受講者の皆さんが製作した土器の野焼きを 5 月 29 日に行いました。1 ヶ月間陰乾した土器を午前中にたっぷり時間をかけて焙^{あぶ}り、最後に強い火力で焼きました。写真は炎がおさまって、木灰にまみれた土器を眺めている様子です。今回は火熱で割れた土器もわずかで、皆さん大満足でした。今回の研修では、焙りの時間・焙りの火力・強い火力で焼くタイミングなど、野焼きに必要なノウハウを研修しました。中には土器づくり教室を控えている受講者の方もおり、真剣に取り組んでいました。

研修課では、本年度、体験学習支援研修を 6 回予定しています。7 月以降は、7 月 16 日にアンギン台づくり、10 月 8・9 日に石庖丁づくり、12 月 24 日に舞ざりづくり、3 月 8 日に装身具づくりの研修を行う予定です。

体験学習に興味をお持ちの教職員や生涯学習担当者のみなさまの参加をお待ちしています。まほろんで学んだ体験学習の方法や機材の作成方法を、教育の場に役立ててみませんか。



体験学習

土笛・土鈴づくり

去る5月4日(水)、ボランティアの方にもお手伝いしていただきながら、実技講座「土笛・土鈴づくり」を行いました。参加者は25名。多くは白河市周辺の方々でしたが、なかには東京からお出での方もいらっしゃいました。土笛も土鈴も音を出す道具で、県内では、三島町中際遺跡(縄文時代後期)や二本松市毘沙門堂遺跡(縄文時代晩期)から土笛が、二本松市田地ヶ岡遺跡(縄文時代中期)から土鈴が出土しています。



＜講座のようす＞

土笛には、吹口の形や指穴の数などの違いによってさまざまな形のものがあります。中際遺跡の例は、指穴はなく、吹口がすこし飛び出した形で、つり下げるためなのか、頭部に穴が開いています。また、毘沙門堂遺跡の土笛は、全体が亀の甲羅のような形をしており、片方の端に横長の吹口が、その反対側の端に丸い指穴がついています。

土笛と土鈴がどういうものなのかについて説明した後、いよいよ土笛から製作開始です。今回作る土笛は、粘土のかたまりを碗形にしたものを二つ合わせる方法で作りました。参加者のみなさんは、思い思いの形をイメージしながら、土笛づくりに挑戦していました。

おおまかな形ができた後は、吹口の穴と指穴を開けます。特に吹口は重要で、その開け方や形によって、



＜完成した土笛と土鈴＞

音が出るかどうかが決まります。みんな、何度も吹き、音を確認めながら、穴の形を調整していました。最後に、細い棒や貝殻などで文様をつけて完成です。

土鈴も基本は土笛と同じ作り方です。ただし、碗形を合わせる前に、なかに粘土の粒や小石を入れます。土笛も土鈴も、これから1ヶ月間乾燥させて、野焼きで焼き上げ、完成です。

約2時間、参加者のみなさんは楽しいひとときを過ごされたようです。

釣り針づくり

4月30日(日)に実技講座「釣り針づくり」を行い、15名のみなさんが参加しました。いわき地方の縄文時代の貝塚からは、たくさんの釣り針が見つかっていきます。釣り針は硬い鹿の角を使って作られており、今回の講座では、同じ材料を使って製作に挑戦しました。

釣り針を最初から作ると半日以上かかるため、大体の形に整えてから、みなさんに体験してもらいました。鹿角を糸ノコで輪切りにした後、グラインダーで上下に溝をつけて、それを半分に割ります。それを薄く削って板状に加工し、糸ノコとグラインダーで釣り針の形に加工します。鹿角は削ると独特の匂いを漂わせ、この匂い対策も大変でした。

当日、参加者のみなさんには、最初に縄文時代の生活を復元したビデオを見ていただいた後、この未製品を砥石とヤスリで削ってもらい、最終的な形に仕上げてもらいました。



＜釣り針づくりのようす＞

鹿角は、そのままではとても硬く、うまく削ることが出来ませんが、水に付けることによって、やわらかくなり少しずつ削れるようになります。

その硬さに苦労しながらも、お昼休みをはさんで、なんとか午後2時半ごろには仕上げる事が出来ました。時間にして、3～4時間位かかったようでした。

苦労して仕上げた釣り針は、思い通りに仕上がったようで、みなさん、満足されたようすでした。

是非、釣りにも挑戦していただければと思います。



ボランティアイベントのお知らせ

まほろん4周年だよ！ボランティア2005

待ち遠しい、暑い夏がやってきます。夏のはじまりをまほろんで楽しく過ごしましょう。

日時 7月18日(月) 午前9時30分～午後3時
場所 まほろん体験広場、特別展示室
主催 まほろんボランティアの会



＜昨年度の竹トンボづくりのようす＞

後援 白河提灯まつり壮者会、白河和太鼓クラブ
内容 まほろんウルトラクイズ、まほろんファイアー、
槍投げ、毬杖ゴルフ、
縄文タトゥー、竹トンボ
づくり、昔話、白河和
太鼓クラブのみなさん
の演奏、白河提灯まつ
り御神楽と浦安の舞他



＜昨年度の槍投げのようす＞

シリーズ復元展示

鉄製品の仕上げその1

まほろんでは、平成14年度から「古代の鉄」をメインテーマとして、^{いがた}鑄型から平安時代の^{いもの}鑄物の鉄製品を復元したり、砂鉄から鉄を作る古代製鉄炉の復元作業などを行ってきました。これらの内容については、本誌8号から14号でお知らせしてきましたが、今回は昨年行った^{ちゅうてつ}鑄鉄製品の仕上げ工程について報告します。

^{じゅうきやく}鑄型から復元した^{ふうたく}鑄鉄製品は、^{ぼんしょう}獣脚付き容器と^{ふうざく}風鐸及び^{ぼんしょう}梵鐘の3つです。これらは全て鉄製ですので、当然のことながら長い間には^{さび}錆びてしまいます。おそらく平安時代の工人たちもこのサビには^{くりよ}苦慮したものと思われ、何らかの方法で、錆びにくくする処置を施していたものと思います。ただ、当時の鑄物製品の出土例が非常に少ないことと、出土した遺物でも錆化が進んで表面の仕上げ技法がよくわからなかったため、今回の仕上げ工程の復元では、現在行われている^{ちゅうきん}鑄金での方法や、文献資料での記載を根拠に仕上げ工程を復元しました。

一般に鑄物の仕上げ工程は、^さ鑄込み後に“型ばらし→仕上げ→研磨・着色”という順序で行われます。「型ばらし」は、鑄型の土を完全に落とす作業で、「仕上げ」は、鑄型の合わせ目にできた^{いば}鑄張り（バリ）を取り、細部をていねいに仕上げる作業です。鑄物の業界では「^{いざう}鑄い

とも呼んでいますが、各種のヤスリ、^{きさ}生下げ（ヤスリをかけたあと平らにする一種の削り刃物）、ノミ、ハンマー、^{かなとこ}金床、^{かなのこ}万力、^{かなのこ}金鋸、^{いざう}キリなどを使用して、根気よく仕上げます。

次の「研磨」は、^{すきせん}鋤銼という刃物で表面を削り、^{ほおのきずみ}朴炭で磨き、その後、鉄さび、砥石、砥の粉などで磨

きます。鉄さびはベンガラが一般で、砥石には石英粒子の粗密により、荒砥・中砥・仕上げ砥に分けられます（1986 香取正彦『金工の伝統技法』「鑄金の伝統技法」理工学社）。

さて、最後の「着色」ですが、鑄物製品では、研磨の工程までで仕上げが終了する場合と、着色まで行う場合があります。平安時代の鑄鉄製品では、どこまで行ったかが不明です。ただ、^{おかなばち}田村市船弓町大鑄矢神社保管の文明19年(1487)銘の御鉄鉢（おかなばち）や、^{えにちじ}磐梯町慧日寺保管の永楽7年(1435)銘の御鉢（おはち）には、表面に何らかの処理の痕跡が確認されました。

このことから、今回は、①漆を焼き付ける（漆焼き法）

②油を焼き付ける（油焼き法）③ワラを燃やしてススをつける（仮称炭焼き法）の3つの方法で着色しました。当時の技術はどれであったのを特定するためには、まだまだ検討を要します。各技法については次号報告します。



＜表面処理を行った鑄鉄梵鐘製品＞

研修課より

7～9月文化財研修のご案内

青空に積乱雲が映える季節がまいりました。今夏も暑さに負けじと、魅力ある研修を企画しております。

7月6日～7日は発掘支援システム活用研修を行います。小高町四ツ栗遺跡を舞台として、遺跡測量や遺構・遺物の実測の効率化・省力化を目的としてトータルステーションによる実測実習と図化ソフトウェアによる作図実習を行います。

7月16日は、喜多方市厚生会館において体験学習支援研修3「あんぎん編布台づくり」を行います。今年も、県内各地域に出向いての体験学習支援研修を企画しておりますので、遠方の方は、この機会をご利用下さい。

8月3日～5日は、教職員発掘調査体験研修を鹿島町の割田H遺跡において実施いたします。遺構の検出や遺物包含層の掘り込み精査を体験していただきます。

8月26日には、郡山市歴史資料館において史跡整備研修を行います。大安場古墳の整備をひかえた郡山市の担当者を講師にお招きし、史跡整備作業のノウハウをはじめとした実戦的な研修です。

9月3日には新企画「考古学と関連科学」を開催



＜昨年度の体験学習支援研修アンギン台づくり＞

いたします。今年は国立歴史民俗博物館の永嶋正春先生をお招きし、古代の漆塗り遺物研究方法や現状についてお話をいただく予定です。

9月24日は専門考古学講座Ⅱとして当館の藤本強館長による「遺跡の調査・保存・復元・展示」の講演を行います。

埋蔵文化財をとりまく情勢は、「いかに発掘調査するか」から「いかに利活用するか」に変わってきており、それをふまえて、今後も積極的な企画を行うつもりですので、ぜひお楽しみにしてください。

総務管理課より

土器復元・修復作業

―壊れた土器をよみがえらせる―

現在、まほろんには縄文土器・弥生土器・土師器など多くの土器が収蔵されています。その内、完形の土器や美しい土器、墨で字が書かれた土器などの一部は常設展示室あるいは企画展などに展示され、みなさんも既に目にされていることと思います。でも、収蔵庫の中には日の目を見ない格好の良い土器がまだ多く眠っているのです。また、遺跡発掘調査後の報告書作成時に、ある程度まで接合・復元されているものの、展示・閲覧に耐えられないような状態の土器もたくさんあります。しかし、これらの土器に少し手を加えることによって活用することが可能になるのです。

今、まほろんでは整理員の人やボランティアの人たちがこれらの土器の復元や修復の作業を行っています。収蔵している資料の復元・修復作業もまほろんの大切な仕事のひとつです。



＜講習会のようす＞

6月14・15日には、整理員の人やボランティアの人たちの土器復元・修復技術向上のため、土器復元の第一人者であるいわき市在住の松本友之氏を講師に招き、講習会を実施しました。講習会では、土器の型取り作業、欠損部に石膏を流し込む作業、整形・着色作業などの基本作業を学びました。

まほろんからのお知らせ

「まほろんその日その日」について

6月9日から、まほろんホームページ上に、毎日更新型の新コンテンツ「まほろんその日その日」をUPしています。その日のまほろんでの出来事について、1枚の写真と簡単な解説文で紹介いたします。是非ごらんください。



ご利用案内

開館時間	9:30～17:00（入館は16:30まで）
休館日	月曜日（月曜日が祝日・休日の場合は開館し、その翌日が休館）、国民の祝日の翌日（土曜日・日曜日にあたる場合は開館）
入館料	無料（体験学習によっては、材料費が必要な場合があります。）
その他	団体（20名以上）でご利用の場合は、事前にご予約ください。